

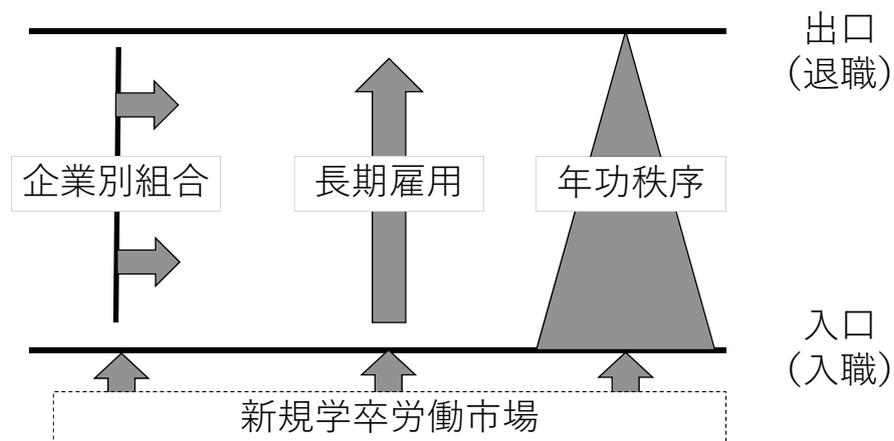
第21回厚生政策セミナー（平成28年12月1日）
“将来世代に引き継ぐ社会と社会保障を考える
～人口減少社会を支え続ける社会保障の挑戦～”
開催：千代田区立日比谷図書館文化館 日比谷コンベンションホール

若者の就職と希望

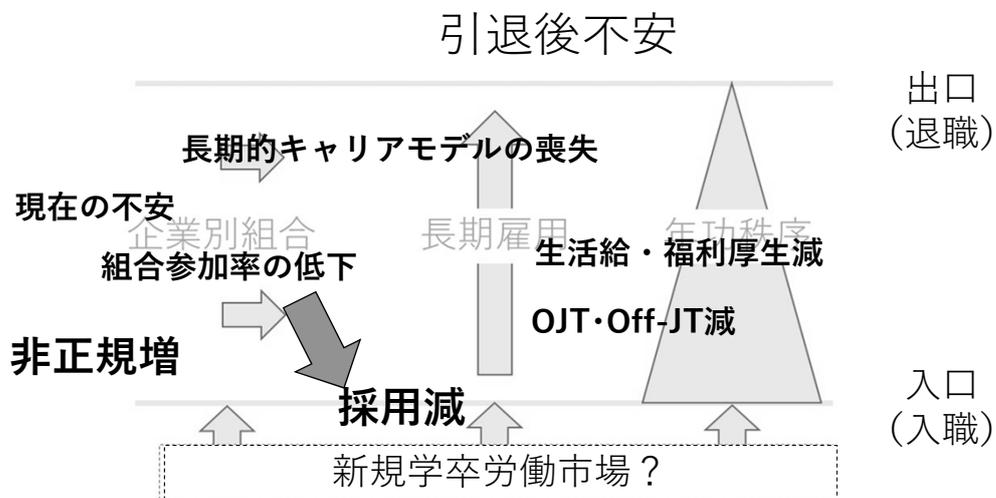
国立社会保障・人口問題研究所
西村幸満

第21回厚生政策セミナー

日本的雇用慣行



日本的雇用慣行



希望とは

1. ある事象・事物が実現することを待ち望むこと。またはその望み。
2. 将来の明るい見通し。

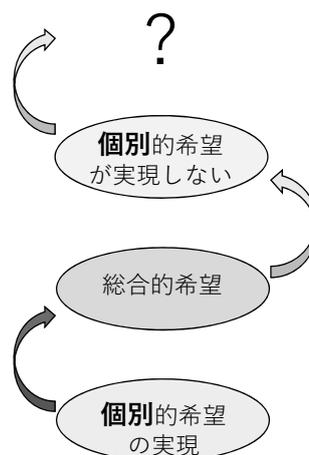
1 ⇒ 個別的希望

玄田有史 (2006) 『希望学』中央公論ラクレ
 玄田有史 (2010) 『希望学のつくり方』岩波新書
 古市憲寿 (2011) 『絶望の国の幸福な若者たち』講談社

2 ⇒ 総合的希望

鈴木賢志 (2015) 『日本の若者はなぜ希望をもてないのか』草思社

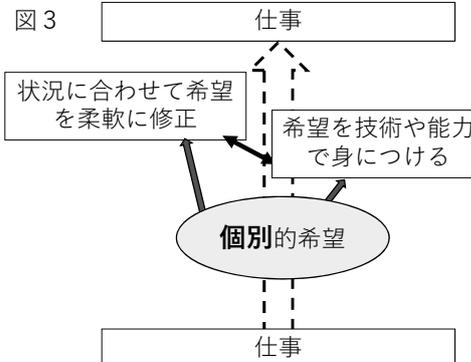
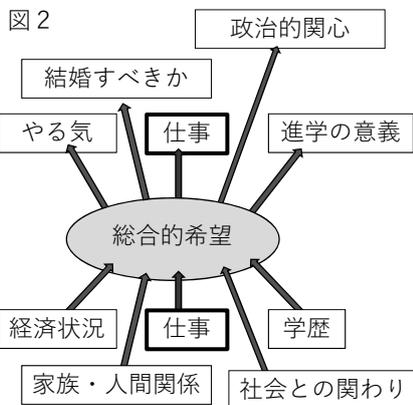
図1 個別的希望と総合的希望の関係



O'hara, D. (2013) *Hope in Counselling and Psychotherapy*. Sage, 11.
 鈴木賢志 (2015) 『日本の若者はなぜ希望をもてないのか』草思社、p.18より作成

希望とは

・ 個別的希望と総合的希望を規定する要因



「あなたは自分の将来について明るい希望を持っていますか。」との問いに対し、「希望がある」「どちらかといえば希望がある」と回答したもの

「現在、あなたは将来に対する「希望」（将来実現してほしいこと・実現させたいこと）がありますか」について「ある」と回答したもの

鈴木賢志（2015）『日本の若者はなぜ希望をもてないのか』 玄田有史（2006）『希望学』中央公論ラクレ草思社で分析した変数間の関係に基づく

総合的希望とは

若者の希望

- ・ 将来への希望があると答えた若者61.6%。
- ・ 欧米5か国でもっとも希望をもてないドイツより20%低く、隣国韓国よりも25%程度低い。

若者の職場への満足

- ・ 職場への満足を感じていると答えた若者は、46.1%
- ・ 欧米5か国でもっとも満足を感じていないフランスより23%低く、隣国韓国より9%低い。

図4 将来への希望

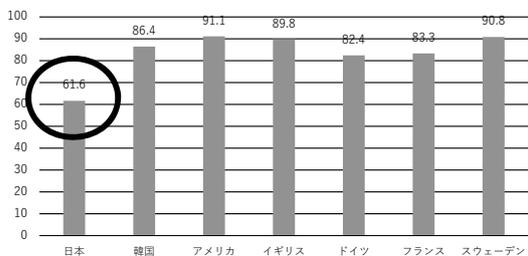
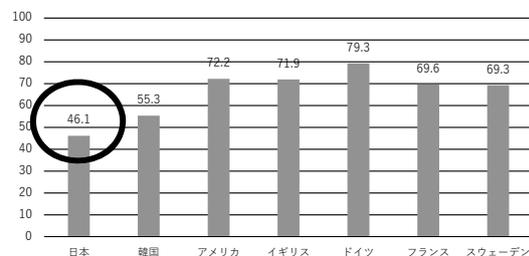


図5 職場の満足度

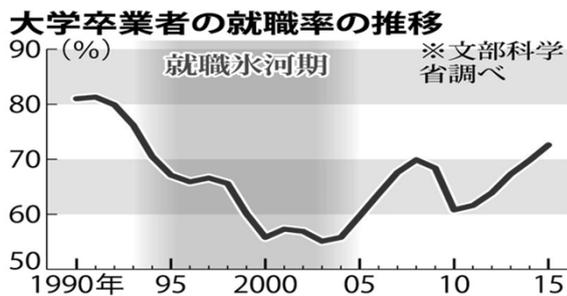


注) 「あなたは自分の将来について明るい希望を持っていますか。」との問いに対し、「希望がある」「どちらかといえば希望がある」と回答したものの合計値。
出典：13-29歳を対象とした「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」（平成25年度）平成26年度版内閣府『子ども・若者白書』より

注) 「あなたは今の職場に満足を感じていますか。」との問いに対し、「満足」「どちらかといえば満足」と回答したものの合計値。
出典：同左

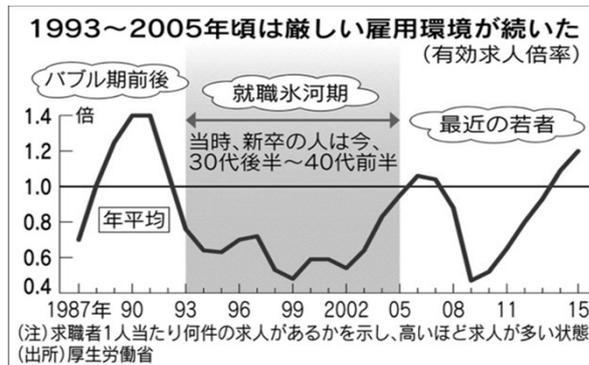
1990年代後半以降の労働市場①就職率・求人倍率

図6



<http://mainichi.jp/articles/20161106/k00/00m/040/144000c> より

図7

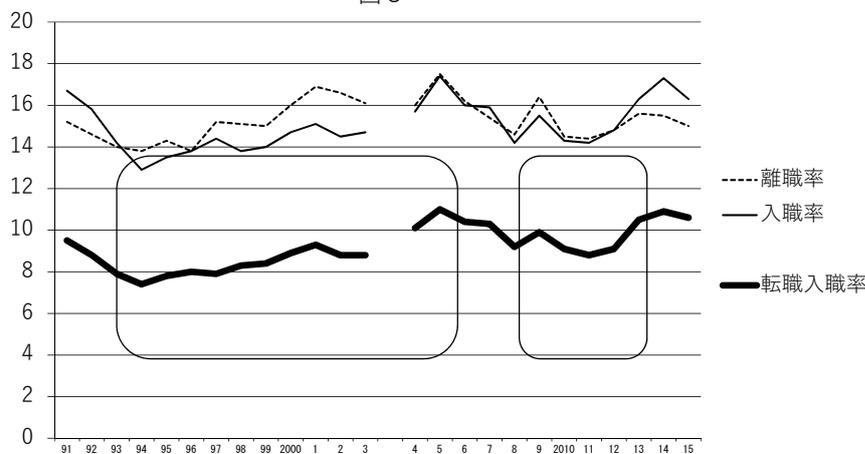


<http://style.nikkei.com/article/DGXMZ003816520Q6A620C1TZD000/> より

1990年代後半以降の労働市場②離転職率、転職入職率

1990年代の離転職は若者と高齢者に厳しい 2000年代の離転職は不安定、転職入職が活発

図8

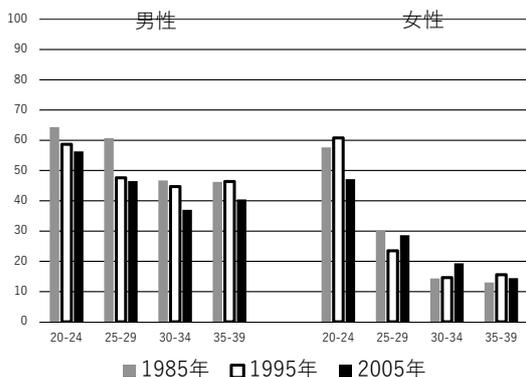


注) 離職率、入職率、転職入職率は、該当年の離職者数、入職者数、転職入職者数の常用雇用者数(1月1日時)に対する比率で計算した。
 出典 厚生労働省「雇用動向調査」より

移動の有無で確認

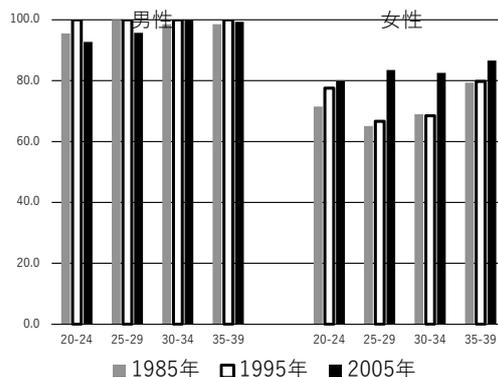
1985年、1995年、2005年の若者の推移
「移動なし」率、近年低下。女性で抑制

図9 調査年別・年齢別「移動なし」率



第1職と第2職の間に変化
男性第2職へ行かず、女性第2職へ

図10 第2職への移動（入職）確率

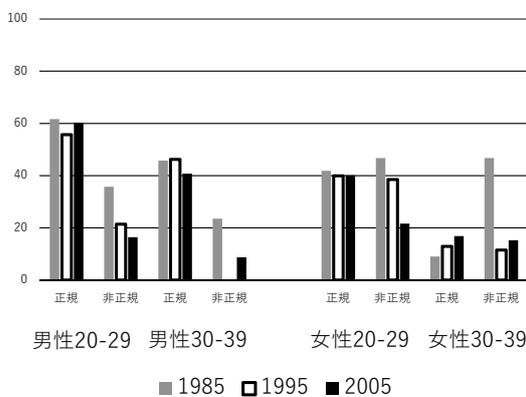


出典 香川めい・西村幸満（2015）「第2職の重要性－『初職からの移行』における現代の課題」『季刊社会保障研究』Vol.51, p.32-33の表2～5に基づいて作成

正規・非正規で比較すると

1985年、1995年、2005年の若者の推移
近年の低下は非正規（男性）、抑止は正規（女性）

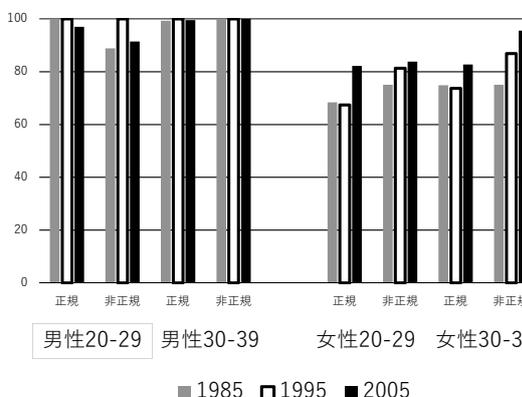
図11 調査年別・年齢別・地位別「移動なし」率



第1職と第2職の間に変化

第2職へ移動しない（非正規）、女性は第2職移動増す

図12 第2職への移動（入職）確率（地位別）



出典 香川めい・西村幸満（2015）「第2職の重要性－『初職からの移行』における現代の課題」『季刊社会保障研究』Vol.51, p.32-33の表2～5に基づいて作成

図13 非正規率の傾向（初職）

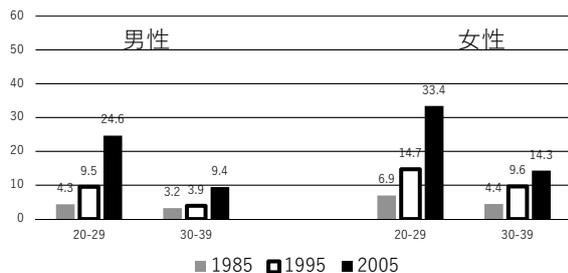
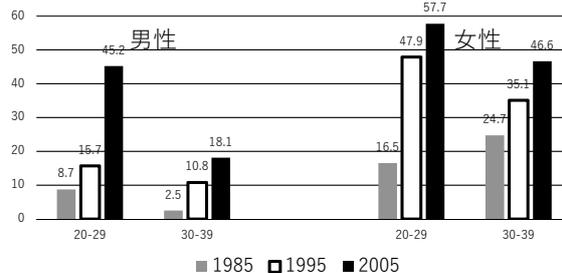


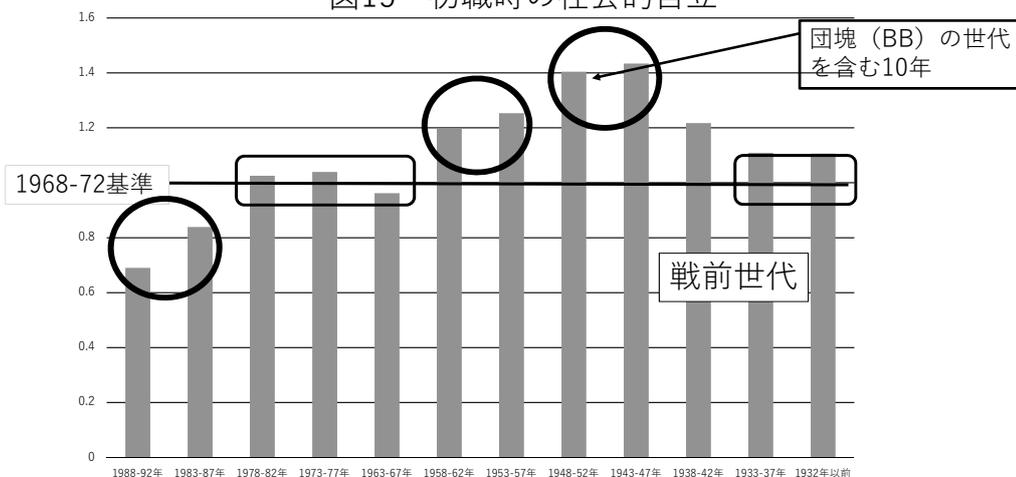
図14 非正規率の傾向（第2職）



出典 香川めい・西村幸満（2015）「第2職の重要性－『初職からの移行』における現代の課題」『季刊社会保障研究』Vol.51, p.32-33の表5に基づいて作成

初職で生活は安定するのか-自立できるのか

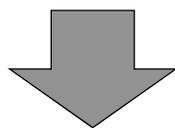
図15 初職時の社会的自立



注) 社会的自立は、生活費用の担い手が、「本人、配偶者、またはその両方」である場合とした。
 出典 西村幸満（2014）「変貌する若者の自立の実態」『季刊社会保障研究』Vol.49, p.393の表5に基づいて作成

仕事の不安定さ

- 仕事の不安定さは、**就職氷河期世代から始まったのではない。**
(団塊の世代で安定した。以降はずっと不安定化が進展している。)
- このトレンドに**就職氷河期世代の受けた不況が重なり、**
その後も不安定化は止まらない。



- 若者への支援は恒久的なもの
- 希望をもちにくいのは、長期的な仕事の不安

図16 希望

柔軟なシステム構築

